



経鷺会

母校創立100周年記念事業

発起人の募集について



2012年10月吉日

経鷺会会長 上原 隆一

発起人代表 柳本信一郎

母校創立100周年記念事業実行委員長 小國 敏雄

ご存知の通り、母校は来年創立100周年を迎えます。この記念すべき年に、経鷺会も発足以来25周年を祝うことになりました。100年前、母校が創立された時の学部は神学部、ドイツ文学部そして経済学部の僅か3学部でした。この母校創立と共に歩んできた伝統ある経済学部OB会として、母校に何か貢献できることはないか、役員一同は、昨年来「経鷺会母校創立100周年記念事業」の構想を練ってきました。その結果、下記の構想を纏め、発起人を募ることになりました。是非皆様のご協力を賜りたいと願っております。

経鷺会がこれまで母校に貢献してきた事業から申し上げますと、3年前「経鷺会研究奨励金」を創設したことです。これは会員の皆様からの寄付金を、学部教授推薦による5名の学生に授与し支援する制度です。毎年一人10万円ずつ、計50万円の授与をするもので、これを過去3年間実施して参りました。

この制度に対しては、下記のような評価を頂いております。

記

- ・教授陣に大変感謝され高い評価を受けている。
- ・授与者に選ばれた学生のモチベーションがあがり、学生達の礼状によれば、OBへの感謝と共に向学心が向上していること
- ・本制度は大学からも高い評価を得ており、他学部においても学部・学科同窓会設立の際のモデルとしたい意向があること。
- ・この制度のお陰で、経鷺会と経済学部との信頼関係が構築され、経鷺会の存在価値が大きくなったこと。

経鷺会と致しましては、「経鷺会母校創立100周年記念事業」で頂く浄財を、上記の50万円の奨学金を継続することは無論のこと、100周年記念事業に相応しく、倍額の100万円を支援し、更に貢献度を上げたいと願っている次第です。会員の皆様のご理解とご協力を心からお願い致します。

募金の目的は以下のような点が挙げられます。まずは、学生支援の研究奨励金50万円を従来通り継続する。その上で100周年記念として更に5名分の研究奨励金を追加支援すること。また、経済学部卒業生が建学の精神であるグローバルな行動力を持ち、進路選考や人生設計の構築について、アドバイスや支援ができるよう大学側とプログラムを推進する資金となること。

さらにその具体案としては、大坂先輩の人生設計や加藤春一先輩のヘッドハンティング事業者の立場からの人材論、人事のプロとしての戸川先輩からの助言など、就職率 96% という本学の学生でも、本当に有効な進路の選択をしてもらうための企画を推進する。費用の掛かる経鷺会の記念式典は実施せず、創立 100 周年の母校へ献金するといったことを考えており、是非とも経鷺会の財政基盤の強化に役立てたいと思っております。

— 発起人の募集内容 —

200 名の発起人を募集し、それぞれに一口 10,000 円以上の寄付をお願いする。

以上、一人でも多くの優秀な経済学部学生を支援し社会へ輩出することが、母校への貢献となり、100 周年を迎える上智大学の社会的価値を、更に高める一助となることを願っています。200 名の発起人募集は高い目標とは存じますが、そのために同期の仲間、クラブ、サークルの仲間など積極的にお声掛け戴きたく存じます。出来るだけ多くの会員の皆様が、この主旨に賛同して戴き、発起人にご参加下さるようお願いする次第です。

上智大学後援・上智大学ソフィア会・ ソフィア経済人倶楽部共催 定例講演会 ご報告

2012年9月29日にロスチャイルド銀行（スイス）、Senior Vice-Presidents エリック・ボーナー氏をお招きした講演会を実施しました。テーマはロスチャイルド家の歴史から、現在のヨーロッパや日本の経済動向に至るまで多岐に渡り、普段なかなか聞けない世界至高のプライベートバンクの内情を皆さん熱心に聞き入っていました。



トピックスは、「日本での 20 年以上にわたるデフレとの戦いとその問題とは?」、「ヨーロッパにおける通貨とビジネスサイクル」、並びにその展望」など充実した内容の講演で質問も頻繁にかけられる、活気のある会となりました。

世界の他の銀行経営にはない特色を有した、今もなお引き継がれているロスチャイルド家の伝統、ビジョン、経営倫理等にも触れられ、今まさに日常直面されている個人資産管理の問題も含め、これからの人生設計に大いなる示唆をあたえるもので、今回のユーロ危機を、他人、他国の出来事とせず、大いなる関心をもって皆さんこの講演に臨まれていました。

Characteristics of the Rothschild Business Model

ロスチャイルド ビジネスモデル

- ・ **Invest only in what you understand** 理解できるものだけに投資
相場のないものに投資なし
- ・ **Responsibility to Next Generation** 顧客の次世代、末代までへの継投
顧客の資産をロスチャイルド自身の資産が如く慎重に運用、並びに経営の透明性
- ・ **Ensuring Protection for Shareholders and Clients** 顧客・株主の保護
上場銀行の法的資本比率（バーゼル条約によると 9%）を超える 29% 以上を達成、維持
- ・ **Maintaining the Characteristics of a family Office**
ロスチャイルド家のファミリーバンクの延長上のプライベートバンクとして発展、維持
- ・ **Clients like Members of the Family club**
プライベートクラブの銀行（既存顧客紹介のみによる顧客獲得）
- ・ **Multicultural Management** 国際的経営感覚
数世紀にわたるグローバルなバンキング
- ・ **Innovative Daring** 革新的投資：ヨーロッパの発展（スエズ運河開発投資、産業革命時のファイナンスにおける原動力）に貢献
- ・ **No Proprietary Trading**
銀行資金と顧客資金混在の運用禁止
- ・ **Unrelenting Professional Excellence** 卓越したプロ意識
ロスチャイルドは金融ドクターであり、顧客のニーズ最優先





上智大学経鷺会第24回代議員会・総会式開催のお知らせ

日時：平成24年10月27日（土）

上智大学経鷺会会長 上原隆一

菊薫る候となりました。会員各位におかれましては益々ご清栄のことと存じます。この度下記要領で上智大学経鷺会の代議員会・総会を開催する運びとなりました。本年は来年の上智大学創立100周年に向け経鷺会の理念に基づき、会の活動を積極的に展開するための重要な総会となります。総会後はイトーヨーカ堂の社長でいらっしゃる亀井淳氏をお迎えしご講演戴きます。我が国流通業を代表する現役トップから今起きている変化に対応する手法をお話し戴けるものと存じます。会員の皆様には万障お繰り合わせ戴きご出席賜りますようご案内申し上げます。

1. 代議員会・総会 14：00 より 12号館102教室

- 【審議事項】
- (1) 事業報告と決算報告
 - (2) 事業計画案と予算案
 - (3) 会則の改定
 - (4) 役員を選任
 - (5) その他

- 【報告事項】
- (1) 経鷺会25周年、学部創立100周年記念事業の発起人募集について
 - (2) 経鷺会の大学創立100周年記念行事への対応について
 - (3) 特別功労役員（5名）の表彰について
 - (4) その他

2. 講演会 15：00 より 12号館102教室

講師：株式会社イトーヨーカ堂代表取締役最高執行責任者

亀井 淳氏

演題：「イトーヨーカ堂の経営戦略（挑戦と変化への対応）」



3. 懇親会 16：30 より 9号館カフェテリア

《経鷺会の理念》

経鷺会は、「キリスト教ヒューマニズム」と「世界の人々と共に歩む国際性」という上智大学建学の精神のもとに育った経済学部卒業生を主体に、自覚と、情熱と誇りを持ち、互いの交流を密にして、「参画する喜び、語る喜び、学ぶ喜び、協力する喜び」を共有する“場”を提供し、且つ、互いの持つ優れた知識を共有する“場”を提供する。それによって、上智大学並びに上智大学経済学部の更なる発展に寄与し、日本と国際社会に貢献する多くの人材の輩出に協力する。

※総会の案内を経鷺会ブログページにアップしますので、
出欠をWEBエントリーにてお願いします。



研究奨励金への寄付の御願い

この研究奨励金は、経済学部の成績優秀な学生に対して行う制度で、上智大学募金室を通じ、経済学部に支払いしております。これからこの活動を活性化させていくためにも、皆様の寄付のご協力を宜しく御願い申し上げます。

また、経鷺会会費（年会費¥3,000）の納入も合わせて引き続き、どうぞ宜しく御願い申し上げます。尚、寄付を頂ける場合はその旨、お振込の際に、「ショウレイキン」と明記くださいませ。（奨励金は1口2,000円以上で御願いいたします。）

振込先：郵便局 口座名：上智大学経鷺会 口座番号：00150-8-537559

ルクセンブルクと上智大学との不思議なご縁に寄せて



ルクセンブルク貿易投資事務所
エグゼクティブ・ディレクター
松野百合子 様

オロリッシュ前副学長の祖国でもあり、我が上智大学とも
縁の深いルクセンブルク。今回はそのつながりについて、
ルクセンブルク貿易投資事務所の松野様にお話を聞くことができました。

(2003年経済・経済卒、広報委員 高増 文)

ルクセンブルク大使館ならびに貿易投資事務所は東京・市ヶ谷にあり、上智大学の四谷、市ヶ谷キャンパスのごく近くです。聖イグナチオ教会の鐘の音が風向きによってはよく聞こえ、「ルクセンブルクの旧市街にいるような錯覚を覚えた」と打ち明ける駐日大使もいました。実はルクセンブルクと上智大学の間には意外にも様々なご縁があります。以下の事実をご存知でしょうか？

- ・ 明治 41 年に来日し上智大学を創設した 3 人のイエズス会神父の一人はルクセンブルク国籍だった。
- ・ 今年 9 月、上智大学ルクセンブルクオフィスがルクセンブルク大学内に開設された
- ・ ルクセンブルクのジャン＝クロード・オロリッシュ大司教 (2011 年～) は前上智大学副学長である
- ・ 現ルクセンブルク大公国首相のジャン＝クロード・ユンカーは上智大学から名誉博士号を授与された
- ・ 在日ベルギー・ルクセンブルク商工会議所 (BLCCJ) 主催の研修プログラムには 2008 年から上智大学の学生が参加し、日本市場進出を目指すベルギー・ルクセンブルク企業の市場調査や日本企業との連絡業務などを学習の一環として担当している

「ルクセンブルクのような小国がなぜ？」と、不思議に思われる方も多いと思います。元上智大学副学長であるジャン＝クロード・オロリッシュ大司教が積極的に橋渡しとなって下さったことはもちろんですが、実はこれはルクセンブルクという国の特徴や立ち位置とも深く関係しているのです。

ルクセンブルク大公国は周囲をドイツ、フランス、ベルギーに囲まれた神奈川県ほどの面積、人口約 52 万人の小国です。国民一人当たり GDP が世界一で、昨今の欧州経済危機の中にあっても国家財政を健全に保っている数少ない国の一つですが、こうした経済的成功にはいくつかの要因があります。



ひとつは政治・社会が安定しているため一貫した長期政策推進が可能であること。これは企業が事業発展に専念できる重要な環境要因で、ルクセンブルクの金融センターがニューヨークに次ぐ世界第二位のファンド設置運用拠点にまで発展した背景の一つです。鉄鋼産業、金融に続く経済発展の柱として10年ほど前からは情報通信・メディア産業が急発展を遂げ、スカイプ、楽天、アマゾンなど世界のオンライン企業が集積しています。



もう一つは徹底した海外市場志向ではないでしょうか。資源のない小国ルクセンブルクに国内市場は無いに等しく、市場を開放し外国企業との競争を受け入れる以外に道はありませんでした。そのことが結果的に多言語社会とグローバルな視野、国際競争力を持つ企業をルクセンブルクにもたらしたと言えます。多くのEU域外企業がルクセンブルクを拠点に欧州ビジネスを展開しています。ルクセンブルクは外国に開かれた国であり、またEU市場全体を見渡すときに存在感を発揮する場所なのです。



上智大学ルクセンブルクオフィスは文化・政治・地理的にEUの中心にあるルクセンブルクを拠点として活用し、欧州の学生向けの日本留学情報の提供や協定校との関係強化などを通じて上智大学のプレゼンス向上を図るそうです。是非ルクセンブルクの立地を大学の国際化にお役立て頂きたいと思います。

ルクセンブルクにはユネスコ世界遺産の首都ルクセンブルク市の古い町並みや、小スイスと言われる森林や古城、モーゼル川流域でつくられる銘醸ワインなどもあり、国民一人当たりのミシュラン星の数が世界一という美食の国でもあります。

ソフィアンの皆様がヨーロッパにいらっしゃる際には、大学オフィスのあるルクセンブルクを是非訪ねてみてください。

< 2012年秋冬 ルクセンブルク関連イベントはこちら >

- 10月20日 ギョーム皇太子のロイヤルウェディング
(日本の皇太子さまもご出席予定)
- 10月24日 セミナー「ルクセンブルク in 丸の内2012
石川のスイーツとルクセンブルクワイン
の優雅な出会い」
- 11月8日 セミナー「ルクセンブルク in 丸の内2012
Shaping Forces - ルクセンブルク人
建築家の視点」
- 11月13日 ベルギールクセンブルク商工会議所
ガラパーティー
- 11月14日 “Luxembourg- Gaming.com”
業界イベント *開催地ルクセンブルク
- 11月21～27日 ヒルトン大阪
「ルクセンブルク・ゲストシェフ・ウィーク」
- 11月28～12月11日 銀座三越「シェフズステージ」
ルクセンブルク料理・食材提供販売

www.investinluxembourg.jp



Grand-Duché de
Luxembourg

生涯柔道

1969年経済学部・経済学科卒 小泉基靖さん



私が柔道を始めたのは昭和30年、10歳の時、偶々近所の警察署の夏季少年柔道教室に友人と一緒に参加したのが私と柔道との出会いでした。一ヵ月後の渋谷区少年柔道大会で5人を投げ飛ばして優勝、投げる喜びを覚えてそれ以来柔道に取り付かれてしまった。

中学、高校、大学、社会人生活、シカゴ、デトロイト、シドニーでの駐在生活を通じて柔道を継続、現在に至るまでず～と57年間柔道を続けています。

昭和46年には現ウズベキスタン、タシケントで開催された第2回世界サンボ選手権に日本代表として70キロ級で出場、銅メダルを獲得、当時のスポーツ新聞にも掲載されました。今は丸の内柔道倶楽部や紀尾井町柔道倶楽部、マスターズ柔道倶楽部に所属して週2回は稽古に汗を流しています。現段位は講道館5段、得意技は大車、体落とし、支え釣り込み足等、時には合宿にも参加、全国柔道高段者大会や東京都柔道高段者大会、日本マスターズ柔道大会等、年に5～6回（最優秀選手賞、金、銀、銅各メダル受賞）試合参加をしています。

柔道は実に奥が深い、心技体、肉体と精神、双方の力が必要とされ、スピード、パワー、テクニックのバランス感覚が必要、一つ一つの技が全て理に通っています。柔道は世界に誇る日本の伝統文化である。礼儀作法、相手に対する尊敬、感謝、青少年教育にも役立ち、そして強くなるだけが目的ではない。柔道が単なるスポーツだったらここまで続けてこれなかったと思う。

柔道を通じてこれまでに国内外に多くの貴重な友人、仲間を得ることができ今現在誠に充実した交流をしています。またその他にも様々なボランティア活動、草の根交流を通してこれから残りの人生を微力ながら社会貢献に役に立ち又自分自身にとっても有意義なものとしていけるよう努力して行きたいと考えております。



「コミュニケーションってなんだろう。」

2002年法学部・法律学科卒 金子有輔さん

Wikipediaによれば、Communication (from Latin “communis”, meaning to share) is the exchange of thoughts, messages, or information, as by speech, visuals, signals, writing, or behavior. まとめてしまえば、考えや情報などを交換すること。こう見ると一見シンプルに見えるのですが、こと人間のコミュニケーションは非常に複雑で興味深いものです。

“コミュニケーションって面白いなあ”と思ったのは大学時代でした。学生寮に入り海外、日本全国の友達と触れ合うことで、物事の見方には様々な見方があって、人によって受け取り方が大きく違うことを知りました。例えば、メキシコ人は「おはぎ」みたいに“豆が甘く煮込まれた料理”なんて信じられないと言い、静岡出身の人は「はんぺん」は“黒色！”と言う。方言、食べ物はもちろんのこと、多くの人には多くの考えがあって、それぞれの意見を持っている。今となっては実に当たり前のことですが、当時の自分にとっては非常に新鮮で、多くの気づきがありました。



社会人になってからは、面白いというより、“コミュニケーションって難しいなあ”と思うことの方が多くなりました。社会人の誰もが習うであろう「ハウレンソウ（報告、連絡、相談）」という言葉にもあるように、組織で動く会社ではコミュニケーションが非常に大切です。新卒で入った経営コンサル会社では、何度も「ハウレンソウ」の壁にぶつかり、クライアントとのコミュニケーション、上司、チーム内のコミュニケーションでたくさん失敗し、勉強をさせて頂きました。「ASAP (As Soon As Possible) で！」と言われても上司によって ASAP の定義が“1 時間程度”の人もいれば“半日”の人もいて…。大混乱したのは今もいい思い出です。

そんな私が今は“インターネットでコミュニケーションを進化させる” SNS を運営する会社にて勤務しております。まだまだ、自分自身のコミュニケーションですら満足にできているのか不安ではありますが、SNS によってより多くの人々が心地よいつながり、コミュニケーションを実現できるよう、毎日ワクワクしながら仕事しています。インターネットによって、もっと人間のコミュニケーションが進化し、素晴らしい世界が一日でも早く来ることを信じて。



上智から世界中に広げたい、笑顔の輪。



Men and Women for Others, with Others

〔上智創立100周年記念事業〕

上智の国際貢献、地域貢献、災害支援をご支援ください。

上智学院は2013年に、上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年を迎えます。上智学院の創立記念事業は、教育・研究・国際貢献を通して、世界人類の平和的発展に寄与することを目指します。例えば、学生生活環境整備としてキャンパス内の非常用備蓄食糧となるパンの缶詰「救缶鳥」を備蓄し、その後、飢餓・被災地域などへの義援物資として届け、世界の飢餓救済に役立てる企画を実施します。また、他にも「病院コミュニケーション・ボランティアシステムの構築」、「地球規模の課題解決に向けた21世紀型教育・研究国際連携プロジェクト」など、上智の「Men and Women for Others, with Others」の精神に則った創立100周年記念事業が始まっています。皆様のご支援をお願いします。

救缶鳥と鷲の“CAN”プロジェクト パンの缶詰「救缶鳥」が義援先に届くまで。



①学内の非常食として2年間備蓄

学生生活の安心と、地域の防災対策に寄与するため、3年間の賞味期限のうち2年間は非常食としてキャンパス内に備蓄し、有事・災害に備えます。

②2年後、再購入と同時に回収

備蓄から2年後に、再購入と同時に回収されます。

③NGOを通じて義援先へ

NGOの日本国際飢餓対策機構などを通じてコンテナで世界の義援先の国々へ輸送されます。

④世界の義援先に届きます

世界の飢餓に苦しむ人々を救う食糧として現地に届けます。なお、ラベルに上智からのメッセージを刷り込んだ「上智オリジナル缶」が届きます。

知ってほしい！世界の飢餓のこと

飢餓は依然として全人類の深刻な問題です。国連ミレニアム開発目標(MDGs)にも、「1990年から2015年までに、飢餓に苦しむ人々の割合を半減させる」ことが掲げられています。また、イエズス会アドルフ・ニコラス総長(元上智大学神学部教授)も、イエズス会日本再渡来100周年および第30代総長就任を記念して2008年12月に上智大学にて行われた講演において、「貧困・飢餓」について「その解決に貢献することこそ上智の使命である」と述べました。



穀物生産高

世界の穀物生産高は世界の人口の2倍を養える量です。



6秒に1人

5歳未満の子供が6秒に1人飢えで命を失っています。



6人に1人

世界人口の6人に1人が飢えに苦しんでいます。



5人に1人

世界人口の5人に1人は1日1ドル未満で暮らしています。

救缶鳥 被災者の声から生まれたパンの缶詰「救缶鳥」

株式会社パン・アキモト国際義援事業本部が製造している、3年間の保存ができるパンの缶詰「救缶鳥」は、阪神淡路大震災の被災者の声から生まれました。**2011年3月の東北地方太平洋沖地震でも、5万缶以上の救缶鳥が被災地に届けられました。**乾パンと違い、やわらかい食感で食べやすく、通常のパン缶の2倍の大きさがあります。缶のふたは切り口で手を切らない「ダブルセーフティフルトップ」を採用、防腐剤を使わない特許製法で、健康も配慮したおいしく安心できる非常食です。

救缶鳥プロジェクト

検索